

はじめに

本書は、大学受験をこころざす諸君のための「英作文」の参考書として書かれた『コペルニクス英作文』の改訂版です。『コペルニクス英作文』は10刷を重ねるロングセラーとして現場の先生方や諸君の先輩たちから圧倒的な支持を受けてきました。このたび、重なる要望にお応えするために解説を大幅に充実させ、新たに『ガリレオの英作文』というタイトルのもと、改訂版を出版する運びとなりました。

本書で展開しているアプローチは、私たちが長年、大学や高校・予備校で教えてきたものや、これまでの入試問題を分析したものにに基づいています。

たいていの「英作文」の教科書・参考書は、多くの単語やイディオムを暗記することに力点が置かれていますが、私たちのアプローチはこれとは対極にあります。すなわち、**ごく平均的な英語力の人でも立派な和文英訳ができ、自然な英文が書けるようになるための方法**を示しています。

本書のアプローチは以下のようにまとめることができます：

- (1) 問題文（日本語）を英語に訳す前に、日本語の意味を充分に把握するようによく吟味する。
- (2) 難しい概念の表現も、簡単な英語の文法や語いを使ってできることを示す。
- (3) 100%の完ぺきな英訳を求めて苦しむよりも、80%～90%の英訳が確実にできることをめざす。

(1)～(3)をまとめて、「ガリレオ式発想転換法」と名づけます。

大学入試の「英作文」に悩まされている諸君のために書かれた本書は、どのレベルの読者でも、使用すれば確実にメリットがあると私たちは確信しています。ヒマなときに少し目を通すだけでも大きな発見があると思いますが、持続して学習することにより最大の効果が期待できます。

これまでのやり方・考え方で成果が得られなかった人も、是非とも本書の「発想転換法」を身につけて、ガリレオのように賢く入試問題の「英作文」を乗り切ってもらいたいものです。

2008年3月

クリストファ・バーナード
勝見 務

この本の構成

各章はそれぞれ、「例文を用いた説明」および「チャレンジ問題」に大きく分かれています。

「例文を用いた説明」では、日本語を英語に訳す場合のアプローチ、テクニックが例示されています。

「チャレンジ問題」はすべて過去の大学入試問題から各章のテーマに沿った問題を選び、実際どのように英訳していくかを懇切丁寧に説明してあります。問題の難易度は文末の★の数で示してあり、次のようになっています。

★（やさしめ） ★★（標準） ★★★（難問）

また、解答（訳例）は必ず複数示し、次のような指針を示しました。

- 😊 Best（模範解答）
- 😐 Second Best（次善の解答）
- 😞 Good（みなさんの標準的解答を想定した訳例）

なぜそうなのかは、その都度、理由を示してあります。

😞 は、語い・構文を思い切り簡単にして書いた訳例です。問題文に含まれる意味をすべては訳していなかったり、あるいは出題者の狙いとするイディオムや言い回しを使っていないため、「答案」としては「物足りない訳」ではありませんが、英文としては充分にその意味を伝えているものです。😊 や 😐 が無理でも、😞 レベルの解答が書ければ少なくとも60%ぐらいの得点はもらえます。

もちろん目標は 😐、さらには 😊 のレベルに近づくことですが、「はじめに」でも触れたように、簡単な文法や語い・構文で充分に 😞 レベルの解答が得られることが本書の目標の一つでもあります。

凡例

/ その前後の一語が言い換えられることを表す。例：start / begin
// その前後の語句・節・文が言い換えられることを表す。
例：attain a goal // achieve a goal
|| 次のような場合の言い換え（＝どちらも可）を表す。
例：I don't think (that) he | can speak | English.
| | | speaks |
() 英文中で省略できることを表す。
例：I don't know it (very) well. [veryは省略可]
→ 参照事項を表す。そのさい、次のような略号を用いた。
■ = 基本例文 □ = 応用例題 ▣ = チャレンジ問題
to do to不定詞を表す (do = 動詞の原形) done 過去分詞を表す